



<報道関係各位>

2017年6月9日
アディダスジャパン株式会社

ストリートのクラシックモデル今再び 「adidas CAMPUS」 合計 14 カラーが登場

今までにない先進的な「CAMPUS」の登場をセレクトし「NO TIME TO THINK」キャンペーンもスタート
ブロンディ・マッコイとナケル・スミスをビジュアルに起用
日本では、東京を拠点とするバンド「OKAMOTO'S」を起用した写真展も開催



#CAMPUS #adidasOriginals

マルチスポーツブランドのアディダスジャパン株式会社(本社：東京都港区、代表取締役：ポール・ハーディスティ)のストリートスポーツウエアブランド「アディダスオリジナルス」は、2017年6月15日(木)より新たにオーセンティックなシルエットの「CAMPUS (キャンパス)」を合計 14 カラー発売いたします。さらに、新たな「CAMPUS」の発売をセレクトし、「NO TIME TO THINK」キャンペーンを展開いたします。

「CAMPUS」は、クラシックコートの中でも、世界中、特に日本のスニーカーファンの間で常に熱狂的な支持を受けてきました。ナイトシーンや都会の路地で、定番のストリートウエアとして愛用されているアディダスオリジナルスに、この夏、コンテンポラリーなシルエットの「CAMPUS」が加わります。さりげないディテールとスウェードのアッパー、カレッジカラーを組み合わせた、幅広いシーンに合うデザインが特徴です。このクラシックなコンビネーションは「Superstar」とは一線を画し、「Stan Smith」よりもラフな雰囲気を出します。コーディネートの上げにプラスするだけで、クールなスタイリングが完成する「CAMPUS」は、デザイナーウエアにも、シンプルなファッションにも相性が良く、履き心地の良さやメンテナンスしやすい点でも優れています。

<主要商品情報>

■ CAMPUS



BZ0084 ¥9,990+税(自店販売価格)



BZ0085 ¥9,990+税(自店販売価格)

上質なスウェードを使用したアッパー、コントラストの映えるレザー仕立てのスリーストライプス、ヒールタブのディテールなど、細部までこだわりクラシック感を再現。同系色のステッチでディテールを施し、サイドに「CAMPUS」の文字をあしらっています。

■ CAMPUS W



BY9846 ¥9,990 +税(自店販売価格)

クラシックなダークカラーとは対照的に、夏にふさわしい、ソフトな色合いのウィメンズモデル。ブラウン系のアースカラーやライトローズが「CAMPUS」のシルエットを控えめに主張。すっきりとした印象で、普段使いのモデルとして春夏秋の3シーズンにわたり活躍する一足。

■ CAMPUS



BZ0066 ¥15,000 +税(自店販売価格)

アッパー全体にヌバックを採用したプレミアムなモデル。スリーストライプスとヒールパネルは同系色にし、ヒールタブをアクセントに備え、サイドには「CAMPUS」の文字を配置。補強されたトゥキャップ、OrthoLite®社製インソールと高級感を演出するレザーライニングを採用しています。

■ CAMPUS and CAMPUS W



BZ0070 ¥14,000 +税(自店販売価格)



BY9838 ¥14,000 +税(自店販売価格)

明るいサマーカラーでアップデートしたメンズ、ウィメンズのアイコンックモデルが登場。アッパーにヌバック、ヒールパネルとギザギザのスリーストライプスのオーバーレイにはレザーを採用するなど、「CAMPUS」ならではの素材を踏襲。メンズモデルは夏らしいブライトカラーを採用。アッパーには、鮮やかなアクアカラー、オーバーレイにはコントラストの映えるホワイト、ソールにクリーム色を施しています。ウィメンズモデルは、柔らかなカラートーンで統一。アッパーに同系色のグレーを、ソールには涼し気な半透明のピンクを施しています。

■ アパレルコレクション「70s APPAREL」について



アディダスオリジナルスは、「CAMPUS」を象徴するデザインを引き立てるメンズ、ウィメンズのアパレルコレクション「70s APPAREL」を発表します。70年代のスポーツシーンを彷彿させる本コレクションは、本物の完成度をさらに高めた、アディダスアーカイブの美学の集大成と言えます

■ 「NO TIME TO THINK」キャンペーンについて

“ダウントウンカルチャーと結びつき、クリエイティブな直感を刺激”

ダウントウンシーンでクリエイティブな直感を刺激するアディダスオリジナルスでは、今回、「CAMPUS」の無謀で大胆なアティチュードを称える「NO TIME TO THINK」キャンペーンを展開します。本キャンペーンは、先進的な「CAMPUS」の登場をセレクトすべく、アディダススケートボーディングチームのブロンディ・マッコイ、ナケル・スミスを始め、モデル兼スノーボーダーのタビア・ボネッティ、モデル、映画制作者など多彩な顔を持つティファニー・ライティがダウントウンのワンシーンの一部となり、キービジュアルに参加しています。

また、日本では、東京を拠点とするバンド「OKAMOTO'S」がCAMPUSを着用し、東京の街中を舞台に、フォトグラファーの伊藤大介氏が撮影。6月15日（木）より「NO TIME TO THINK」写真展を開催します。

「NO TIME TO THINK」は、90年代初頭のニューヨークのダウントウンシーンにインスパイアされたフレーズです。クリエイティビティに対して直感的なアプローチを取っていた当時、数々のクリエイティブな先駆者が生まれました。彼らは、一つのグループとして、あらゆる抑制を排除し、本能のままに「オリジナルとは何か」を追求しながら行動していました。1980年代にバスケットボールコート用として作られた「CAMPUS」は、恐れ知らずの精神を滲ませるスリーストライプスを配した当時のスウェードモデルを、スポーツだけではなく街で履きたいという時代の要求に応え、バスケットボールコートの外へ進出。初代モデルは、バーガンディーとグリーンという大胆なカラーバリエーションで登場。当時ダウントウンにいた新進気鋭のクリエイターたちの間で人気を博しました。時代に合わせて進化を遂げながらも、「CAMPUS」の飾らない本物志向の無骨なアティチュードは今も健在します。伝統的なトレフォイルロゴは、新たなアディダスコミュニティの「ためらわない」姿勢を後押しするとともに、新たなストーリーの始まりを象徴しています。

■ 「NO TIME TO THINK」 キャンペーン参加メンバー

Tiffany Lighty (ティファニー・ライティ)

モデル、映画制作者、フィットネス愛好家など、多彩な顔を持つ。ヒップホップの影響を強く受け、物心がついた時からアディダスとともに育ってきた。

Blondey McCoy (ブロンディ・マッコイ)

ロンドン出身。世界中のスケーターを惹きつけるサウスバンクコミュニティの一員として、スケートボードシーンに活気を与えた一人。アーティストやモデルとして活躍する彼のインスピレーションは、ロンドンのストリートに見られる多様性から見出される。

Tavia Bonetti (タビア・ボネッティ)

カナダ出身のモデル兼スノーボーダー。拠点とするロサンゼルスでは、モデルやスケーターとしても、そのボーイッシュなルックスでプレゼンスを高めている。

Na-Kel Smith (ナケル・スミス)

ロサンゼルス出身の年多方面で成功している新世代スケーター。スケートボードからステージパフォーマンス、モデルなど、どんなことでも彼にかかれば、すべてが彼流に。LAのストリート、スクールヤード出身で、注目のアップカマーとして世界中のベストスポットを訪れている。魅力的な笑顔がチャームポイント。特有のスタイリッシュな動きに加えて、オールドスクールなトリックセレクションを持ち合わせる引き出しの多さも魅力。ニュージェネレーションのキーマン的存在として活躍している。



■ 「NO TIME TO THINK」 写真展について

アディダスオリジナルスでは、6月15日(木)より「NO TIME TO THINK」写真展を開催。東京を拠点とするバンド「OKAMOTO'S」がCAMPUSを着用し、東京の街中を舞台に、フォトグラファーの伊藤大輔氏が撮影した作品を展示します。



【展示会場】

アディダスオリジナルスフラッグシップストアトウキョウ、アディダスオリジナルスショッップ心齋橋、atmos原宿店、Undeafated 東京（原宿）、BILLY'S ENT 原宿店

【OKAMOTO'S プロフィール】

VOCAL : オカモトショウ DRUMS : オカモトレイジ BASS : ハマ・オカモト GUITAR : オカモトコウキ
中学校からの同級生。全員が岡本太郎好きで、ラモーンズのように全員苗字はオカモト。東京は新宿からやって来た恐るべき子供達である。2010年3月にはアメリカ・テキサス州オースティンで開催されたS×SW2010へ日本人男子としては最年少で出演。その後、全米6都市を廻る。Japan Nite US Tour 2010へのライヴツアーにも参戦し大成功をおさめる。最近では、フジロックフェスをはじめ、大型フェスにも参加。

■ 「CAMPUS」の歩み

スウェードのシンプルなデザインが特徴の「adidas CAMPUS」は、あらゆる時代のサブカルチャーの一端を担ってきました。直感に訴えかけてくるシューズのデザインは、数十年にわたり、スポーツや文化に大きなレガシーを残してきました。1969年頃、ボストンのバスケットボール選手が着用していたのは「adidas Hoop」というシューズでした。形状はローカット、素材はサテンレザーで、白いレザーのストライプスが配置され、そのシューズは「Green Star」と呼ばれていました。

1970年代初頭、同じデザインのシューズが、他の多くのチームにも供給されました。当時の名前は「adidas Tournament」でした。Kareem Abdul Jabbar（カリーム・アブドゥル・ジャバー）など、当時活躍していた伝説的なバスケットボールプレイヤーが選んだ鮮烈なカラーと不屈の精神を支える機能性によって「Tournament」の認知度が高まり、人気を博しました。



アディダスは、手頃な価格のスウェードシューズを発売。当初は70年代のトレーニング用モデルの名前を引き継いでいましたが、1983年に「CAMPUS」に名前を変更。ワインレッドに近いバーガンディー、ドル紙幣のような緑のマネーグリーン、スカイブルーなど、いわゆるカレッジカラーを用い、スポーツの第一線からは退いていましたが、これが功を奏し、B-BOYやB-GIRLといったブレイクダンサーの間で急速に普及。一時的なブームの枠を超えて、ヒップホップを象徴するファッションに浸透しました。



メタル、パンク、ヒップホップが混じり合ったニューヨークならではのスタイルを持ち込んだトップアーティストたちが「CAMPUS」のシルエットをユニフォームの一部のような存在にし、それがストリートやアメリカを超えて広まりました。他の場所では入手困難だったため、ほとんど広告を展開していないにも関わらず、クラシックなシューズとして、熱狂的なファンを獲得。しかし、その熱狂的なブームも去り、1988年頃までには姿を消してしまいます。その後、一部のファンの中で「CAMPUS」の発掘ブームが起き、それが「CAMPUS」の復活につながります。

ロサンゼルスでは、一部のストリートウェア販売店が他店に先駆けて、売れ残りの「CAMPUS」を他のクラシックシューズと一緒に売り出していました。やがて「CAMPUS」は、ヒップホップから派生したジャンルや硬派なラップのレコードジャケットを飾るようになりま。ストリートや線路、階段などでスケートボードをする新しい文化が登場し、華麗な技が映像で紹介されるようになると、「CAMPUS」はロサンゼルスやサンフランシスコで人気を博します。その後、アディダスがスケートボーディング部門を立ち上げた際に、「CAMPUS」は極めて重要な位置づけのスニーカーとなりました。

1990年の前半に入ると、アディダスは、過去に人気のあったモデルに目を向け、オリジナルラインで「CAMPUS」モデルのスペシャルエディションの再販を開始。1995年には、スウェードやレザーを施した「CAMPUS II」を幅広く展開し、男女を問わずあらゆる層に支持されベストセラーになりました。



2007年、アディダスオリジナルスは、一針一針丁寧に縫い上げる「ステッチバイステッチ製法」を使用した1980年半ばのシューズを詳細に調査し、「CAMPUS 80s」を生み出しました。直近の10年間は、世界的に展開している有名企業やメーカーの間で、過去の傑作や名作のデザインを復刻しています。

過去の記録はブランドの個性を築きます。アディダスオリジナルスは、最終的には、次に起こすアクションが極めて重要だと考えます。無駄を省くことで生まれた「CAMPUS」はベストセラーとなりましたが、その人気は衰えていません。スキニー、バギー、アンダーグラウンド、オーバーグラウンド、ミドルグラウンド、ストリート、ハイエンド、ローエンドなど、どのコーディネートにも合う汎用性の高さと、様々な文化の盛衰の中で常にその一端を担ってきました。

アディダスオリジナルスの「CAMPUS」は、代々、ピッグスキンスウェードを使用したアッパーを継承してきました。クッション性と耐衝撃性を強化するために設計された大きなミッドソールからは、バスケットボールシューズであったことが垣間見えます。「CAMPUS」は、ラバーカップソールで優れた耐久性を実現し、ヘリンボーンパターンのアウトソールでグリップ力を強化。主に「CAMPUS 80s」か

らインスピレーションを受けた最新モデルの「CAMPUS」は、アーカイブモデルの長所をいくつも受け継ぎながら、バランスよく仕上げました。新たなテクノロジーを搭載し、直線的なサイド、洗練された履き口とヒールライン、強化されたトゥキャップで現代に新たなシルエットを広めていきます。

■主要取扱い店舗

アディダスオリジナルスフラッグシップストアトウキョウ

全国のアディダスオリジナルスショップ

全国のアディダスブランドコアストア

アディダスオンラインショップ <http://shop.adidas.jp/originals/campus/>

ABC MART 各店 www.abc-mart.net/

Billys 各店 www.billys-tokyo.net/

ACE Shoes 各店 <https://aceshoes.net/>

atmos 各店

KICSLAB 原宿

UPTOWN

BEAMS 原宿店

BEAMS BOY 原宿店

ビューティーアンドユース心斎橋店

ビューティーアンドユース渋谷公園通り店

H BEAUTY & YOUTH

EDIFICE 渋谷・新宿

IENA 自由が丘

UNDEFEATED 原宿

nanounivers 神南

styles 代官山

emmi 各店

emmi wellness closet 各店

CITRON IN THE CITY by emmi 各店

sneakers by emmi 各店

LITTLE UNION TOKYO

Mila Owen 各店

SHEL'TTER 各店

BILLIONAIRE BOYS CLUB

The Heartbreakers

vendor

JOSEPH 各店

JOURNAL STANDARD relume

伊勢丹新宿店 メンズ館 6階

イセタンハウス (大名古屋ビルヂング)

伊勢丹新宿店 本館 2階

AMERICAN RAG CIE

ESTNATION

Mischief

※店舗によって取扱モデルが異なります。詳細はお近くの店舗までお問い合わせください。

■ アディダスオリジナルスの最新情報について

アディダスオリジナルス公式ホームページ	http://www.adidas.com/originals/
アディダスオリジナルスルックブック	http://adidas.jp/lookbook/originals/
アディダスオリジナルス公式ツイッター	http://twitter.com/adiOriginals_jp
アディダスオリジナルス公式ブログ	http://adidas.jp/originals/blog/
アディダスジャパンフェイスブックページ	http://www.facebook.com/adidas
アディダストウキョウインスタグラム	http://instagram.com/adidastokyo/

■ adidas Originals (アディダスオリジナルス)ブランドについて

2001年にスタートしたストリートスポーツウエアブランド。1972年から1996年まで「adidas社」のカンパニーロゴだったトレフォイルロゴ(三つ葉のロゴ)をシンボルマークとし、アディダスが持つ歴史を継承しながら、現在のトレンドを反映させた新作モデルやコラボレーション商品まで、現代の洗練されたスタイルへと進化を遂げ、幅広いアイテムを展開しています。

©2017 adidas Japan K.K. adidas and the 3-Stripes mark are trademarks of the adidas Group

一般のお客様からのお問い合わせ先

アディダスグループお客様窓口 TEL : 0570-033-033(土日祝除く、9:30~18:00)